

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300133		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホーム さくら瀬峰	ユニット名	A棟
所在地	宮城県栗原市瀬峰下藤沢97-2		
自己評価作成日	令和 3年 9月 30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさをモットーに安全とサービスを提供します」の考えの基、利用者様お一人お一人との関わりを大切にしながら、日々の生活を送っています。利用者様の意思や選択を大事にして、利用者様がしたい事、好きなことが自由にできる喜びを職員も共有し、笑顔で暮らせるように支援しています。今般の新型コロナウイルス感染症の流行で外出や地域の人との交流、ご家族様との面会もあまりできない環境にありますが、感染予防に注意し、出来るだけ外出や家族との面会ができるように配慮しています。また看取りを行った利用者様には、ご家族様が悔いのないように、面会や、医師との情報共有ができるように感染対策に十分注意して対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年目を迎える「グループホームさくら瀬峰」は、JR瀬峰駅から徒歩で15分ほど北西にあり、道を挟んで東側には栗原市瀬峰総合支所がある。年に2回、2日間かけて業者によるホーム内清掃を行い清潔を保っている。医療体制を確保し、本人と家族の希望に沿ったターミナルケアの実践を行っている。コロナ禍にあつて、感染対策など工夫しながら外出を多くし、入居者の笑顔を絶やさないよう努めている。入居者との会話では「否定せず傾聴する」ことを大切にし、職員間で共有している。前回の目標達成計画に掲げた「理念の理解と共有」について、全職員で取り組み達成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 : グループホーム さくら瀬峰)「 ユニット名 : A棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念にある、「その人らしさ」を大切にしたい介護を行っています。毎年3月に、法人としての目標、施設としての目標を募集し、その中から選ばれた目標に沿って1年間実践しています。	ホームの目標「思いやりの気持ちを持って、笑顔がたくさん見られる介護」を、全職員で考えを出し合って決めた。目標達成のために、入居者との会話を多くし、交流を持つことを意識したケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のお祭りや行事等が中止となり、日常的な交流はできていない。	交流のない状態ではあるが、地域の高齢者について区長から相談を受けるなどしている。日頃から付き合いのあるコンビニから、節分に恵方巻の提供があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近頃は、コロナウイルス感染対策の為、近隣の皆様の出入りもお断りしている状態です。一度、区長さんより、お一人暮らしの方の相談を受けて、一緒に訪問したことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、施設の運営状況や活動内容、事故報告などを行っている。参加者からの意見や助言等を、サービスの向上に活かしている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、書面開催にて意見を募っている。	入居者状況や行事、転倒や誤薬の事故、研修を受けたなど書面により郵送で報告している。メンバーから意見や要望はない。書面による意見の返信を求めると、会議として成立するよう工夫して頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場で、情報や助言等をいただいている。瀬峰総合支所が隣にあり、介護保険や生活保護の手続き等で顔を合わせる機会があり、相談できる関係を築いている。	運営推進会議のメンバーでもある地域包括職員と交流があり、ホームの内部研修の講師を依頼したり、訪問リハビリの利用について相談した。市の研修会「看取りについて」に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する施設内研修を行い、職員への周知を図っている。基本的な考え方や、1番身近である言葉による拘束についても理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	「身体拘束委員会」を年2回開催した。会議録には「身体拘束廃止の指針」の読み合わせや「スタッフから」の項に、「ケアについて見直していきたい」などの表記はあるが、議題を理解するには不足がある。気になる対応はその場で注意していきたいとしている。	会議録として検討した内容や気になる対応例を書き残すことで、次回会議での振り返りや話し合いのものになる。記録の残し方の工夫をお願いしたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、虐待をテーマとして研修を行っている。職員同士で情報を共有しながら、虐待防止に努めている。	本部の上司が講師として「虐待と拘束」の研修を行った。管理者が不適切ケアやグレーゾーンケアについて委員会で話した。大声を出すことや声を荒げるなどを見たら、管理者に報告するなどを申し合わせた。	年2回以上の研修実施をお願いしたい。「グレーゾーンケアや不適切なケア」とは何か、日頃のケアと比較できる見直し例などを学び、研修を実践に活かしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で、制度について学ぶ機会をつくっている。困難事例については、地域包括支援センターに相談するなどして、状態に合ったサービスを提供できるよう、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書、入居契約書などの書類を読みながら説明し、1つ1つ確認、質問等を聞きながら行っている。納得した上で署名、捺印をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族様の意見や要望等を伺い、反映させている。日頃から利用者様とコミュニケーションを図り、様子や会話の中から思いをくみ取るように努めている。	コロナ禍により、現在はリビングでの窓越し面会となっている。毎月、写真を載せた「さくらだより」と担当者から入居者の様子を書いた手紙を送っている。入居者に食べさせて欲しいものの要望を聞き、対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンスで、職員の意見や提案を聞き、協議し運営に反映させている。その他、年に1回、職員面談を行い、1人1人から話を聞く機会を設けている。	月に1度、ユニット会議を兼ねた職員会議で職員は発言することが出来る。外出先の提案やアクティビティの実施内容について意見が出ている。上司との職員面談では、職場での人間関係などの相談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭状況や希望に合わせて勤務表を作成するようにしている。働きやすい職場となるよう、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職務内容に合わせて、必要な研修に参加させている。毎月、施設内研修を実施し、知識・技術の向上を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬峰・高清水包括協議会への参加や、グループホーム協議会への参加をし、情報交換を行っている。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で自粛している。	法人が実施する2週間に1度の管理者会議に参加し、ウイルス対策や職員の悩みを話し合ったり、互いに助言し合うなどしている。業者を講師としてAEDの講習会を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問させていただき、不安や要望を確認している。施設見学も行っている。ご本人様のお話をよく伺い、できるだけご希望に添えるような支援をしている。気持ちに寄り添うことを大切にし、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が実態調査に訪問した際に、ご家族の不安や要望等をお聞きして、安心して入居していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際や、訪問した際には、どのような事に対して一番支援を必要としているのかを伺い、入居の方向だけではなく、その方に必要な支援が何なのかを考えながらお話を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、新聞たたみ等をお手伝いしていただいている。ご自分の役割だと思っている利用者様もあり、生活の一部になっている。職員が感謝を伝えると笑顔が見られ、意欲に繋がっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族報告書やさくらだよりをお送りし利用者様の様子をお伝えしている。面会時にはコミュニケーションを図り、ご家族の気持ちや思いを受け止めるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様等との窓越し面会を行ったり、近隣をドライブして歩いている	希望のかかりつけ医を受診している。本人の希望で気になる自宅を見に行ったり。月2回の訪問理容を利用しており、馴染みの理容師と笑顔で会話している。馴染みの店から持ち帰り、「たい焼きを食す会」を開いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が助け合い、声を掛け合っている。くしゃみをした方にティッシュを差し出したり、食事の声掛けをしたり、一人一人が誰かを思い、支え合っている。職員は間に入り見守り、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、ご家族様から相談があった際には、そのつど対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や行動などを通して、その人の思いを把握して、できるだけ希望に添えるように努めている。	着衣や飲み物を自分で選んでもらっている。麺が嫌いな人にはご飯を出している。入居者と職員の相性などを把握して対応している。新入居者の緊張を解くために、現役時代の話をして打ち解けてもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査でご本人やご家族からお話を聞いている。ケアマネージャーや病院からも生活歴や病歴、これまでのサービス利用の経過等をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で、現状の把握に努めている。一人一人の状態をケース記録に記入し、変化や注意する事があれば申し送りしている。申し送りノートも活用し、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、職員全体で話し合い、ケアプラン作成に繋げている。ご本人の思いや、ご家族の意見を聞き、現状に即したケアプラン作成をしている。	本人意向の「出来ることは手伝う」について、役割を持つことで生活に意欲を持ってもらうことを援助方針とした。洗濯物や新聞たたみをしてもらい労いの言葉をかけて意欲を引き出す内容を介護計画に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、1日の様子が分かるようにしている。職員間で情報を共有し、ケアの統一、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた際は、職員同士で話し合い、サービスの追加をケアプランに取り入れている。外部(訪問看護ステーション、福祉用具事業所)と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは、運営推進会議などを通して地域の様々な行事に参加するように努めてきたが、コロナウイルス感染蔓延の為、外出そのものが減ってきており、出掛けても車窓からの見学となる事が多い		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が通院介助を行い、適切な医療が受けられるように情報伝達を行っている。受診結果は、ご家族にも報告している。状況に応じてご家族が同行する事もある。	それぞれが希望するかかりつけ医を受診している。看護職員が通院介助を行い、主治医への情報伝達をしたり助言を受けるなど適切な対応をしている。受診結果はケース記録に記載し、家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1~2回出勤している。職員と情報共有し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日頃の状態や生活が分かるように情報提供している。洗濯物を届けに行ったり、利用者様との馴染みの関係を壊さないよう努めている。退院に向けた話し合いに参加し、ご家族様と共に今後の方向性を確認している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の基本的な考えに基づき説明し、同意書をいただいている。終末期になった際、利用者様やご家族様の意向を大切に、最良と考えられるケアを提供できるよう、主治医や関係者で話し合いをしている。	「ターミナルケアにおける確認事項」の文書があり、終末期の迎え方について延命処置や想定される課題について、ホームから対応方法を提示し、本人家族の希望を聞いている。職員は、終末期の具体的症状を学ぶなどしてチームケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っている。実際に現場で起こる急変や事故発生時の対応を経験し、少しずつ実践力が身についてきている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年2回、避難訓練を実施している。	消防署の立ち合いはなく、夜間想定での避難訓練を1回実施した。マニュアルに沿って行われたが、実践記録はない。訓練後の反省には、「実際ではもっと難しい」「日頃の訓練が必要」などがあつた。	夜間想定を含む年2回以上の避難訓練を実施して頂きたい。訓練に際しては、実施した様子を記録に残し、次の訓練に活かすよう取り組んでいただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを一番に考え、利用者様の意思を尊重し、自信や誇りを損なわない声掛けに注意している。職員は常に尊敬の念をもって接している。	誕生日には、それぞれに合わせて靴下やマグカップなどをプレゼントしている。活動への参加や起床時間など、本人のペースを大切にしている。入居者自身に出来ないことがあっても指摘をしない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃より、利用者様が自分の意見や選択、判断ができるように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、強制はせず、利用者様のペースで過ごしていただいている。何か希望などがあれば、そのつど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容を依頼し、好みの髪型にカットしていただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けの確認や、盛り付けの手伝いや確認をして頂いたり、食後の食器の片付けを手伝って頂いています。誕生日には、好きな物や食べたいものをお聞きして取り入れたり、行事などの際には皆さんの意見を聞いてメニューを組んでいる	入居者の好きな煮物や魚を入れながら、職員が献立を作っている。節分の恵方巻や雛祭に海鮮ちらし、七夕に西瓜やとうもろこしなど、季節を味わう工夫をしている。外食や弁当持参で外出するなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を確認し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた声掛けや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中も夜間も出来るだけトイレで排泄できるように支援しています。リハビリやパットを使用している利用者様にも、汚れる前に、トイレ誘導し気持ちの良い排泄が出来るように、排泄チェックを行いそのデータをもとに、トイレ誘導を行っている	入居者のプライドや心的負担に配慮して、パッドやリハビリパンツを汚さない間隔の誘導に努めている。夜間だけオムツを用いる人もいる。寝たきりの人の「トイレに行きたい」との思いを聞いて、複数介護で叶えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やレクリエーションを通して、体を動かすようにしている。こまめな水分補給や乳製品の摂取、野菜を使用した食事づくりを心掛けている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人一人の希望に合わせて無理強いせず、入浴していただいている。入浴しない方には、清拭、足浴を行い、清潔保持を心掛けている。	週に2回を目安に入っている。リフト浴ができる浴室が1カ所ある。「家で入るから」など、気の向かない人には時間や職員を替えて誘っている。同性介助の希望に対応している。羞恥心に配慮して脱衣室の戸を閉める。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、自由に休んでいただいている。日中、活動を促し適度な運動量になるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人毎にファイリングし、随時内容を確認している。薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。与薬前には職員2名で確認を行い、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割を持っていただき、張り合いに繋げている。好きなことを把握し、活動を促し、気分転換や楽しみごとになるように配慮している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物等に柔軟に対応できるように努めている。季節を肌で感じていただけるよう、季節ごとの見どころへお連れしたり、外食も行っている。	看護師が同行し、重度の人も安心して外出している。南方の千本桜や一迫のあやめ園、米山の紅葉など季節を感じている。平筒沼や明治村、南三陸町など、場所によって弁当持参や外食を楽しんでいる。ホテルでのランチは恒例の行事になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金の管理は行っていません。買い物などは、施設の立替金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に電話が来た時には、話しやすい場所で話をさせていただいている。希望があれば、職員からご家族様に電話をし、会話をさせていただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、自由に連絡されている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱などを招かないように配慮し、心地よい空間で、生活感や季節感を取り入れた環境づくりをおこなっている。夜の照明は、明る過ぎないように配慮している。	リビングでは、入居者が落ち着くテレビの音量や職員の動きに気を配っている。壁にはみんなで手掛けたハロウィンのカボチャや折り紙の桔梗を飾っている。地域交流室があり、職員研修に利用している。業者による年2回の大清掃をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟内には、ソファーやベンチ等を共有空間に置き、それぞれのタイミングで使用できるようにしている。利用者様の交流の場にもなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、利用者様が使い慣れた物を持って来ていただけるよう、ご家族様にお話している。筆筒や時計、写真や位牌などを持って来ている利用者様もあり、居心地が良く過ごせるように配慮している。	クローゼットとナースコールが設置されている。重度の人のコールに、機敏に対応できるようリビング近くの部屋に替えるなど、入居者本位の対応をしている。布団に鈴を付けて夜間の離床が分かる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいように、ご利用者様の目線に合わせてネームプレートを設置している。トイレの入口にはトイレマークを貼り、分かりやすくしている。リビングや廊下等に手すりを設置し、安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300133		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホーム さくら瀬峰	ユニット名	B棟
所在地	宮城県栗原市瀬峰下藤沢97-2		
自己評価作成日	令和 3年 9月 30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさをモットーに安全とサービスを提供します」の考えの基、利用者様お一人お一人との関わりを大切にしながら、日々の生活を送っています。利用者様の意思や選択を大事にして、利用者様がしたい事、好きなことが自由にできる喜びを職員も共有し、笑顔で暮らせるように支援しています。今般のコロナウイルス感染症の流行で外出や地域の人との交流、ご家族様との面会もあまりできない環境にありますが、感染予防に注意し、出来るだけ外出や家族との面会ができるように配慮しています。また看取りを行った利用者様には、ご家族様が悔いのないように、面会や、医師との情報共有ができるように感染対策に十分注意して対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年目を迎える「グループホームさくら瀬峰」は、JR瀬峰駅から徒歩で15分ほど北西にあり、道を挟んで東側には栗原市瀬峰総合支所がある。年に2回、2日間かけて業者によるホーム内清掃を行い清潔を保っている。医療体制を確保し、本人と家族の希望に沿ったターミナルケアの実践を行っている。コロナ禍にあつて、感染対策など工夫しながら外出を多くし、入居者の笑顔を絶やさないよう努めている。入居者との会話では「否定せず傾聴する」ことを大切にし、職員間で共有している。前回の目標達成計画に掲げた「理念の理解と共有」について、全職員で取り組み達成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 : グループホーム さくら瀬峰)「 ユニット名 : B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念にある、「その人らしさ」を大切にしたい介護を行っています。毎年3月に、法人としての目標、施設としての目標を募集し、その中から選ばれた目標に沿って1年間実践しています。	ホームの目標「思いやりの気持ちを持って、笑顔がたくさん見られる介護」を、全職員で考えを出し合って決めた。目標達成のために、入居者との会話を多くし、交流を持つことを意識したケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のお祭りや行事等が中止となり、日常的な交流はできていない。	交流のない状態ではあるが、地域の高齢者について区長から相談を受けるなどしている。日頃から付き合いのあるコンビニから、節分に恵方巻の提供があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近頃は、コロナウイルス感染対策の為、近隣の皆様の出入りもお断りしている状態です。一度、区長さんより、お一人暮らしの方の相談を受けて、一緒に訪問したことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、施設の運営状況や活動内容、事故報告などを行っている。参加者からの意見や助言等を、サービスの向上に活かしている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、書面開催にて意見を募っている。	入居者状況や行事、転倒や誤薬の事故、研修を受けたなど書面により郵送で報告している。メンバーから意見や要望はない。書面による意見の返信を求めるなど、会議として成立するよう工夫して頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で、情報や助言等をいただいている。瀬峰総合支所が隣にあり、介護保険や生活保護の手続き等で顔を合わせる機会があり、相談できる関係を築いている。	運営推進会議のメンバーでもある地域包括職員と交流があり、ホームの内部研修の講師を依頼したり、訪問リハビリの利用について相談した。市の研修会「看取りについて」に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する施設内研修を行い、職員への周知を図っている。基本的な考え方や、1番身近である言葉による拘束についても理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	「身体拘束委員会」を年2回開催した。会議録には「身体拘束廃止の指針」の読み合わせや「スタッフから」の項に、「ケアについて見直していきたい」などの表記はあるが、議題を理解するには不足がある。気になる対応はその場で注意していきたいとしている。	会議録として検討した内容や気になる対応例を書き残すことで、次回会議での振り返りや話し合いのものになる。記録の残し方の工夫をお願いしたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、虐待をテーマとして研修を行っている。職員同士で情報を共有しながら、虐待防止に努めている。	本部の上司が講師として「虐待と拘束」の研修を行った。管理者が不適切ケアやグレーゾーンケアについて委員会で話した。大声を出すことや声を荒げるなどを見たら、管理者に報告するなどを申し合わせた。	年2回以上の研修実施をお願いしたい。「グレーゾーンケアや不適切なケア」とは何か、日頃のケアと比較できる見直し例などを学び、研修を実践に活かしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で、制度について学ぶ機会をつくっている。困難事例については、地域包括支援センターに相談するなどして、状態に合ったサービスを提供できるよう、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書、入居契約書などの書類を読みながら説明し、1つ1つ確認、質問等を聞きながら行っている。納得した上で署名、捺印をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族様の意見や要望等を伺い、反映させている。日頃から利用者様とコミュニケーションを図り、様子や会話の中から思いをくみ取るように努めている。	コロナ禍により、現在はリビングでの窓越し面会となっている。毎月、写真を載せた「さくらだより」と担当者から入居者の様子を書いた手紙を送っている。入居者に食べさせて欲しいものの要望を聞き、対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンスで、職員の意見や提案を聞き、協議し運営に反映させている。その他、年に1回、職員面談を行い、1人1人から話を聞く機会を設けている。	月に1度、ユニット会議を兼ねた職員会議で職員は発言することが出来る。外出先の提案やアクティビティの実施内容について意見が出ている。上司との職員面談では、職場での人間関係などの相談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭状況や希望に合わせて勤務表を作成するようにしている。働きやすい職場となるよう、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職務内容に合わせて、必要な研修に参加させている。毎月、施設内研修を実施し、知識・技術の向上を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬峰・高清水包括協議会への参加や、グループホーム協議会への参加をし、情報交換を行っている。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で自粛している。	法人が実施する2週間に1度の管理者会議に参加し、ウイルス対策や職員の悩みを話し合ったり、互いに助言し合うなどしている。業者を講師としてAEDの講習会を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問させていただき、不安や要望を確認している。施設見学も行っている。ご本人様のお話をよく伺い、できるだけご希望に添えるような支援をしている。気持ちに寄り添うことを大切にし、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が実態調査に訪問した際に、ご家族の不安や要望等をお聞きして、安心して入居していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際や、訪問した際には、どのような事に対して一番支援を必要としているのかを伺い、入居の方向だけではなく、その方に必要な支援が何なのかを考えながらお話を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、新聞たたみ等をお手伝いしていただいている。ご自分の役割だと思っている利用者様もあり、生活の一部になっている。職員が感謝を伝えると笑顔が見られ、意欲に繋がっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族報告書やさくらだよりをお送りし利用者様の様子をお伝えしている。面会時にはコミュニケーションを図り、ご家族の気持ちや思いを受け止めるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様等との窓越し面会を行ったり、近隣をドライブして歩いている	希望のかかりつけ医を受診している。本人の希望で気になる自宅を見に行ったり。月2回の訪問理容を利用しており、馴染みの理容師と笑顔で会話している。馴染みの店から持ち帰り、「たい焼きを食す会」を開いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が助け合い、声を掛け合っている。くしゃみをした方にティッシュを差し出したり、食事の声掛けをしたり、一人一人が誰かを思い、支え合っている。職員は間に入り見守り、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、ご家族様から相談があった際には、そのつど対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や行動などを通して、その人の思いを把握して、できるだけ希望に添えるように努めている。	着衣や飲み物を自分で選んでもらっている。麺が嫌いな人にはご飯を出している。入居者と職員の相性などを把握して対応している。新入居者の緊張を解くために、現役時代の話をして打ち解けてもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査でご本人やご家族からお話を聞いている。ケアマネージャーや病院からも生活歴や病歴、これまでのサービス利用の経過等をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で、現状の把握に努めている。一人一人の状態をケース記録に記入し、変化や注意する事があれば申し送りしている。申し送りノートも活用し、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、職員全体で話し合い、ケアプラン作成に繋げている。ご本人の思いや、ご家族の意見を聞き、現状に即したケアプラン作成をしている。	本人意向の「出来ることは手伝う」について、役割を持つことで生活に意欲を持ってもらうことを援助方針とした。洗濯物や新聞たたみをしてもらい労いの言葉をかけて意欲を引き出す内容を介護計画に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、1日の様子が分かるようにしている。職員間で情報を共有し、ケアの統一、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた際は、職員同士で話し合い、サービスの追加をケアプランに取り入れている。外部(訪問看護ステーション、福祉用具事業所)と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは、運営推進会議などを通して地域の様々な行事に参加するように努めてきたが、コロナウイルス感染蔓延の為、外出そのものが減ってきており、出掛けても車窓からの見学となる事が多い		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が通院介助を行い、適切な医療が受けられるように情報伝達を行っている。受診結果は、ご家族にも報告している。状況に応じてご家族が同行する事もある。	それぞれが希望するかかりつけ医を受診している。看護職員が通院介助を行い、主治医への情報伝達をしたり助言を受けるなど適切な対応をしている。受診結果はケース記録に記載し、家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1~2回出勤している。職員と情報共有し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日頃の状態や生活が分かるように情報提供している。洗濯物を届けに行ったり、利用者様との馴染みの関係を壊さないよう努めている。退院に向けた話し合いに参加し、ご家族様と共に今後の方向性を確認している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の基本的な考えに基づき説明し、同意書をいただいている。終末期になった際、利用者様やご家族様の意向を大切に、最良と考えられるケアを提供できるよう、主治医や関係者で話し合いをしている。	「ターミナルケアにおける確認事項」の文書があり、終末期の迎え方について延命処置や想定される課題について、ホームから対応方法を提示し、本人家族の希望を聞いている。職員は、終末期の具体的症状を学ぶなどしてチームケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っている。実際に現場で起こる急変や事故発生時の対応を経験し、少しずつ実践力が身についてきている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年2回、避難訓練を実施している。	消防署の立ち合いはなく、夜間想定での避難訓練を1回実施した。マニュアルに沿って行われたが、実践記録はない。訓練後の反省には、「実際ではもっと難しい」「日頃の訓練が必要」などがあつた。	夜間想定を含む年2回以上の避難訓練を実施して頂きたい。訓練に際しては、実施した様子を記録に残し、次の訓練に活かすよう取り組んでいただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを一番に考え、利用者様の意思を尊重し、自信や誇りを損なわない声掛けに注意している。職員は常に尊敬の念をもって接している。	誕生日には、それぞれに合わせて靴下やマグカップなどをプレゼントしている。活動への参加や起床時間など、本人のペースを大切にしている。入居者自身に出来ないことがあっても指摘をしない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃より、利用者様が自分の意見や選択、判断ができるように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、強制はせず、利用者様のペースで過ごしていただいている。何か希望などがあれば、そのつど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容を依頼し、好みの髪型にカットしていただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けの確認や、盛り付けの手伝いや確認をして頂いたり、食後の食器の片付けを手伝って頂いています。誕生日には、好きな物や食べたいものをお聞きして取り入れたり、行事などの際には皆さんの意見を聞いてメニューを組んでいる	入居者の好きな煮物や魚を入れながら、職員が献立を作っている。節分の恵方巻や雛祭に海鮮ちらし、七夕に西瓜やとうもろこしなど、季節を味わう工夫をしている。外食や弁当持参で外出するなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を確認し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた声掛けや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中も夜間も出来るだけトイレで排泄できるように支援しています。リハビリやパットを使用している利用者様にも、汚れる前に、トイレ誘導し気持ちの良い排泄が出来るように、排泄チェックを行いそのデータをもとに、トイレ誘導を行っている	入居者のプライドや心的負担に配慮して、パッドやリハビリパンツを汚さない間隔の誘導に努めている。夜間だけオムツを用いる人もいる。寝たきりの人の「トイレに行きたい」との思いを聞いて、複数介護で叶えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やレクリエーションを通して、体を動かすようにしている。こまめな水分補給や乳製品の摂取、野菜を使用した食事づくりを心掛けている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人一人の希望に合わせて無理強いせず、入浴していただいている。入浴しない方には、清拭、足浴を行い、清潔保持を心掛けている。	週に2回を目安に入っている。リフト浴ができる浴室が1カ所ある。「家で入るから」など、気の向かない人には時間や職員を替えて誘っている。同性介助の希望に対応している。羞恥心に配慮して脱衣室の戸を閉める。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、自由に休んでいただいている。日中、活動を促し適度な運動量になるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人毎にファイリングし、随時内容を確認している。薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。与薬前には職員2名で確認を行い、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割を持っていただき、張り合いに繋げている。好きなことを把握し、活動を促し、気分転換や楽しみごとになるように配慮している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物等に柔軟に対応できるように努めている。季節を肌で感じていただけるよう、季節ごとの見どころへお連れしたり、外食も行っている。	看護師が同行し、重度の人も安心して外出している。南方の千本桜や一迫のあやめ園、米山の紅葉など季節を感じている。平筒沼や明治村、南三陸町など、場所によって弁当持参や外食を楽しんでいる。ホテルでのランチは恒例の行事になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金の管理は行っていません。買い物などは、施設の立替金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に電話が来た時には、話しやすい場所で話をさせていただいている。希望があれば、職員からご家族様に電話をし、会話をさせていただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、自由に連絡されている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱などを招かないように配慮し、心地よい空間で、生活感や季節感を取り入れた環境づくりをおこなっている。夜の照明は、明る過ぎないように配慮している。	リビングでは、入居者が落ち着くテレビの音量や職員の動きに気を配っている。壁にはみんなで手掛けたハロウィンのカボチャや折り紙の桔梗を飾っている。地域交流室があり、職員研修に利用している。業者による年2回の大清掃をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟内には、ソファーやベンチ等を共有空間に置き、それぞれのタイミングで使用できるようにしている。利用者様の交流の場にもなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、利用者様が使い慣れた物を持って来ていただけるよう、ご家族様にお話している。筆筒や時計、写真や位牌などを持って来ている利用者様もあり、居心地が良く過ごせるように配慮している。	クローゼットとナースコールが設置されている。重度の人のコールに、機敏に対応できるようリビング近くの部屋に替えるなど、入居者本位の対応をしている。布団に鈴を付けて夜間の離床が分かる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいように、ご利用者様の目線に合わせてネームプレートを設置している。トイレの入口にはトイレマークを貼り、分かりやすくしている。リビングや廊下等に手すりを設置し、安全に配慮している。		